

平成26年度後期 授業改善アンケート 質問項目

		no.	設 問	① ←→ ⑤
学 生		1	シラバスで授業内容を確認しましたか	確認しなかった ~ 十分確認した
		2	教室では授業に積極的に取り組みましたか	取り組まなかった ~ 取り組んだ
		3	あなたの出席状況を評価してください	良くない ~ 良好
		4	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか	しなかった ~ 十分した
授 業	内 容	5	授業はシラバスに沿って行われましたか	シラバスと異なる ~ シラバスに沿っていた
		6	授業内容を理解できましたか	理解できなかった ~ 十分理解できた
	教 え 方 等	7	説明が明快でしたか	分かりにくい ~ 明快
		8	話は良く聞き取れましたか	聞き取りにくい ~ 聞き取れた
		9	板書、OHP・PowerPoint等は授業を理解する上で効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
		10	配布資料、教材等が効果的でしたか	改善して欲しい ~ 効果的
環 境 ・ 設 備 等	11	学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか	良好でない ~ 良好	
	12	参考書等が図書館に揃っていますか	不足 ~ 揃っている	

1. 概評

すべての項目について全学科平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。

良好な結果を維持しつつも、前年度に比して2/3項目が0.1ポイント下回った前期から、学科平均が0.1ポイント上回った項目は「no.9」「no.12」の2項目のみとなったが、下方回答率は「no.3」以外はすべて減少した。教員各自が結果を丁寧に確認し、授業での具体的改善・情報共有等に努めた結果と考える。

なお、ここ数年の傾向として、受講者数の少ない科目（とくに演習・実習科目）だと高評価で、受講者数の多い講義科目（必修科目を含む）になると低評価である場合が往々にしてあり、授業運営の難しさを証拠立てるものである。こうした科目については、平成28年度導入予定の新カリキュラム移行とともに対策を講じつつ、適正な広さの教室の確保など、学生の学習環境の改善という面でも配慮が必要である。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	1	31	83	[学生] 学科平均は良好な数値を維持している。 前期には全体的に下方回答が増えていたが、この点に改善が見られる。とくに、「2. 教室では授業に積極的に取り組んだか」「4. 授業外で自主的な学習をしたか」の、学生の主体的な学習態度にはっきりと改善が見られ、前年度並みに復したことが心強い点である。前期の評価に対する対策が功を奏したようであるが、この結果を維持できるよう今後も心掛けたい。
2	4.2	0	0	0	0	29	86	
3	4.4	0	0	1	0	7	107	
4	4.2	0	0	0	1	32	82	
5	4.2	0	0	0	0	19	96	[授業[内容]] 学科平均は良好な数値を維持している。 前期に比して下方回答が減り、上方回答が増えた。受講生の傾向や質の変化を心配したが、受講生も半期で大学での学びに対しそれなりの対処が出来るようになってゆくことが見て取れる。
6	4.1	0	0	0	5	32	78	
7	4.2	0	0	0	7	23	85	[授業[教え方等]] 学科平均は良好な数値を維持している。 前期に比して下方回答率が減少しており、分かりやすい授業のための工夫は各授業で努力され、その点は受講生にも伝わっていると思われる。とくに「10. 配布資料、教材等が効果的か」は、前期より9%、比較的高評価だった平成25年度前期よりさらに2%も高い結果となった。「9. 板書、OHP、PowerPoint は授業を理解する上で効果的か」については、前期より15%、同じく好結果であった平成25年度後期と比しても1%下回るだけとなった。こうした結果に慢心せず、今後とも受講生の特質を見極め、教員間の情報共有を図ってゆく。
8	4.3	0	0	1	4	15	95	
9	4.2	0	0	0	8	20	85	
10	4.3	0	0	0	2	18	94	
11	4.3	0	0	0	0	12	103	[環境・設備等] 「11. 学習環境」については、例年に比しても寒かったにも関わらず、前期に引きつづき良好な数値を維持した。 「12. 参考書が図書館に揃っているか」についても、平成25年度後期と同様の学科平均値に復した。各授業での周知の結果と思われる。
12	4.1	0	0	0	3	36	76	

3. 今後の方針

本学科は、すべての項目について全学科平均以上の数値であり、総体的に良好な結果を維持している。今年度前期のアンケート結果を受けて、昨年度と比べて散見される下方回答を減らすべく、教員各自が努力し、学科間で学生の傾向・課題点などの情報の共有を進めるという方針をとったところ、前期より上方回答率が上昇する結果となった。今後も同様の方針をとり、下方回答率の減少に努める。

なお、次年度から、授業改善アンケートの内容が改訂されるので、それによって教員個々の授業成果や授業運営の工夫・改善点がより明確化されること、それを受けて学生の学びの成果が一層助長されることを期待するが、これを機に今一度、学生に対してアンケートの意義をきちんと説明することがその前提と考える。

1. 概評

今学期の評価は、学科平均が全体平均よりポイントが上回っている項目が 11 項目 (No.1,2,4,5,6,7,8,9,10,11,12)、同じポイントが 1 項目 (No.3) という大変良い結果であった。平均ポイントが上回っている11項目においては、全て 0.2 ポイントの差が全体平均と比べて出ており、満足できる結果と言える。

【学生】

3 項目 (No.1,2,4)においてポイントが上回り、1 項目 (No.3)は同じ数値であった。学生の意識が更に高まっている様子が見られる。

【授業[内容]】

2 項目とも、全体平均を上回っており、良い授業内容が実施されているものと考えられる。

【授業[教え方等]】

4 項目とも、全体平均を上回っており、継続して高い評価を得られている。今後も FD 活動等を積極的に行ない、更に効果的な授業運営を目指していきたい。

【環境・整備等】

2 項目とも、全体平均を上回っており、4 ポイントも超えている。継続してポイントの向上が見られる。これまで学科で改善に努めてきた成果が出ていると考えられる。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(一般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	5	37	86	【学生】 ・4 項目とも、今回の全体平均と比べると良好な結果と言えるが、前年度と比べると同じポイントとなっている。比較的高いポイントで推移している状態ではあるが、今後如何に伸ばしていくかを検討していく必要がある。 ・これら 4 項目は、学生のシラバス確認や授業への取り組みを如何に自主的にさせるかに関連している。このようなトピックで教員間での話し合いを実施し、学生の自主学習を促す授業運営に更に取り組みでいきたい。
2	4.3	0	0	0	1	21	106	
3	4.4	0	0	0	1	10	117	
4	4.3	0	0	0	1	18	109	
5	4.3	0	0	0	1	13	114	【授業[内容]】 ・2 項目とも 4.3 という高い結果となっている。今回の全体平均は超えているが、前年度と比べると同じポイントとなっている。 ・最低ポイントがもう一段階高くなると、平均ポイントが上がる事が考えられる。学生のニーズや授業方法を更に検討して、この点を高めていきたい。
6	4.3	0	0	0	2	22	104	
7	4.3	0	0	3	5	17	103	【授業[教え方等]】 ・4 項目とも 4.3 ポイント以上と、今回の全体平均は超えている。前年度と比べると No.8 (話はよく聞き取れたか)のみ 0.1 ポイント上昇し、その他は昨年度と同じポイントであった。 ・この 4 項目の回答には、3 ポイント以下の回答が見られる。他の項目にはこのような低い回答は見られない。特に、No.7 (説明が明快でしたか)の回答が低い傾向がある。この分散傾向は、ここ数回見られる傾向となっているので、FD 活動等を通して数値の改善をはかりたい。
8	4.4	0	0	1	4	16	107	
9	4.3	0	0	1	5	18	104	
10	4.3	0	0	1	3	23	101	
11	4.4	0	0	0	1	11	116	【環境・設備等】 ・2 項目とも 0.2 ポイント以上の差で今回の全体平均を超えている。 ・環境・設備に関しては、ここ数回継続して向上している。カリキュラム作成の時に配慮することも影響が出てくるので、この点は担当教員の先生方と協力して、学科としても授業計画に取り組み必要がある。
12	4.2	0	0	0	2	29	97	

3. 今後の方針

- 全体的に見ると、前年度に比べて0.1ポイント上がったのが2項目(No.8と12)のみで、その他の10項目は昨年度と同じ数値であった。但し、この10項目の平均値が4.3ポイントと言う高い数値が出ているので、学生からの評価が(ある意味で)高止まりしているのかと思われる。この点は大変評価できると考えているが、ここから更にポイントを上げて行くことを検討する必要性を感じている。
- 今後の方策としては、回答に分散傾向が見られるNo.7から10(授業【教え方等】)の改善と、比較的ポイントの低いNo. 1(シラバスでの授業内容の確認)とNo.12(参考図書)の項目を、更に高めて行きたいと考えている。

1. 概評

後期開設科目のうち、86科目でアンケートを実施した。全体平均を上回った項目が8項目で、同じものが2項目（No.4、No.9）、低い数値となったのが施設設備面（No.11、No.12）であった。前期ポイントが低かった「授業内容を理解できたか」の項目は全体平均を上回ることができた。授業改善が行われたことを示している。一方、前期ポイントが高かった「学習環境」の項目は0、2ポイント下げている。学科・資格必修、選択必修は受講者が多く、教室の確保が難しい現状がある。参考図書の充実と共に、学科で情報を共有し、引き続き改善に向けて努力して行きたい。
（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	0	23	57	[学生] 授業への積極的な取り組みや出席状況は全体平均より0.1～0.2ポイント高く、真面目な学科学生の特性を反映している。シラバスを確認することについては、かつてはポイントの低い項目であったが、繰り返し指導を行った結果、シラバスの確認が定着しつつあると感じる。ただし、必修科目についてはまだ十分ではないため引き続き指導を続けて行く。 授業外の学習については、ポイントの高い授業とそうではない授業の差が大きい。ポイントの低い授業についてはレポートや課題の工夫をしてもらうよう学科から申し入れをして行く。
2	4.2	0	0	0	1	16	63	
3	4.5	0	0	0	0	2	78	
4	4.1	0	0	0	0	22	58	
5	4.2	0	0	0	0	17	63	[授業[内容]] 学科平均が全体平均より0.1ポイント高く、担当者の努力は評価される。ただ、複数の授業でポイントがやや低い担当者については、学科から改善の申し入れを行う。
6	4.2	0	0	0	3	17	60	
7	4.2	0	0	1	3	13	63	[授業[教え方等]] 授業内容の理解や説明の明快さとほぼ同様の傾向を示す。4項目中、板書やパワーポイントの利用については唯一、学科と平均全体の数値が同じであった。効果的な利用を工夫している担当者がほとんどであるが、分野や内容によっては視聴覚機材の利用が難しい科目もある。今後は工夫していただくよう申し入れをして行く。
8	4.3	0	0	1	3	11	65	
9	4.1	0	0	1	4	20	55	
10	4.2	0	0	0	4	13	63	
11	4.2	0	0	0	2	15	63	[環境・設備等] 全体平均より学科平均がいずれも0.2ポイント低い。学科・資格必修科目については受講生が多いため教室の確保が難しい。今までも教室の割り当てには配慮を行ってきたが、時間割を含めて再度調整して行く。参考書の充実も従来からの課題であり、資料の探し方を指導すると共に、学生からも図書館に要望を出すなど、学科を上げて取り組んで行きたい。
12	3.8	0	0	1	7	38	34	

3. 今後の方針

授業への取組や出席については全対平均より 0.1～0.2 ポイント高いことから、本学科の学生が真面目に取り組んでいる様子が伺える。ただ、授業外の学習が充分ではないことがここ数年の課題であった。そこで、自主性を引き出すために①～④の取組を継続してきた。今回のアンケートで授業外の学習のポイントが全体平均に並んだことはその成果が少しずつ出てきたものと考えられる。今後もこの指導を継続し、さらなる学生の自主性を引き出すよう取り組んでいきたい。

- ①1年次の必修授業(『歴史文化基礎』)では各自が選んだテーマについて調査し、その結果を整理し、授業で報告するスタイルを徹底し、自主的・主体的な学習と学ぶ姿勢を養う。
- ②2年生以上では、必修授業での課題の徹底、ゼミでの夏期研修旅行、海外研修プログラムの参加、昭和女子大学文化史学会への参加などから、自主的・主体的な学習意欲を養う。
- ③シラバスに沿った授業運営を各教員に呼びかける。
- ④教員へFD講演会への参加を呼びかける。

なお、今回評価の低かった施設設備・参考図書の充実についても従来からの課題であり、①・②の取組を行っているがまだ十分とは言えない。今後も引き続き取組み、改善を図っていきたい。

- ①講義形式に応じた教室の確保に努める。
- ②参考図書の充実に向けて教員・学生共に図書館への図書の購入希望を申請する。

1. 概評

後期開設科目のうち、108 科目のアンケートをとる。全体平均をしたまわるのは No.01, No.12. いずれも-0.1 ポイントであり、誤差の範囲とおもわれる。逆に No.07 は+0.1 ポイント。前期とくらべると、No.1, No.7 が+0.1 ポイント。ここ数年大きな変化はみられない。マンネリズムにおちいらぬよう注意を要するところである。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	4	21	44	39	[学生] 前期比／前年度比はつぎのとおり(以下同様). no.1+0.1/±0, no.2±0/0, no.3+0.1/±0, no.4±0/0. 大きな変化はみられない.
2	4.1	0	0	0	2	38	68	
3	4.4	0	0	0	0	3	105	
4	4.1	0	0	0	2	28	78	
5	4.1	0	1	0	3	32	72	[授業[内容]] 前期比／前年度比とも変化なし。ただし、まだ 3.0 未満の科目があるのが残念である。
6	4.1	0	2	1	4	30	71	
7	4.2	0	2	0	3	29	74	[授業[教え方等]] No.7+0.1/+0.1 , No.8-0.1/ ± 0, No.9 変化なし, No.10-0.1/±0. 2 科目が 3.0 未満. 来年度の成り行きを注視する。
8	4.2	0	0	1	3	22	82	
9	4.1	0	2	0	2	31	73	
10	4.1	0	2	0	6	27	73	
11	4.2	0	0	0	3	19	86	[環境・設備等] 前期比／前年度比とも変化なし。図書館が新装され、設備図書を増やすなどして改善をはかる。
12	3.9	0	0	1	7	44	56	

3. 今後の方針

2015 年度からシラバスに講義に出席するための予習・復習時間を明記することになった。学科では履修指導にあたり、時間割のあいた時間に最低週 2 コマの自習時間をもうけるよう、学生に課する予定である。学生たちは留学してようやく自学・自習の必要を痛感する。はじめての試みがどのような結果をもたらすか注視する。

1. 概評

学科設立2年目が終了し、1、2年生が揃ってのアンケート実施となった。評価は、大学全体平均よりもやや低めとなっているが、学科内では、前期の結果と比較して総じて改善傾向を示している。特に、授業内容（内容理解、聞き取りやすさ、分かり易さなど）に関する項目では、改善が顕著である。カリキュラム上、1年次から2年次前期までは、専門教育科目の全てが必修科目であり、学生の履修計画に占める学科必修科目の割合は概ね85%以上であったが、2年次後期からは、選択科目中心の履修パターンに変化する。今期からは2年次対象の「ビジネス研究」もスタートし、講義内での実務家との接触や対話の機会が増加した。実務家協働型の講義の特徴として、発言や質問など学生自身による講義参加が進めば進む程、そこから新たな話題が提供され、得られる情報も多くなる。プレゼンテーションや課題演習を活用した対話型・アクティブラーニング型の講義運営を学科の文化として定着させるべく、教員側も教授法の工夫を進めたい。一方、ポストン後の英語力維持や応用的コンピュータスキルの修得など、スキル系科目の充実、初年次教育プログラムの体系化は、継続課題として捉え、改善可能な事柄については、教員間の情報共有を進め、年度途中でであっても即応できるような体制づくりを進めたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.5	0	0	4	26	31	8	[学生] 出席状況、授業外学習については若干の数値の改善が見られ概ね良好といえる。1年次、2年次の標準的履修モデルでは、多くが必修科目に割かれるため、前期同様、講義シラバスを熟読して講義に臨む姿勢の確立が不十分であった。3年次以降は一転して選択科目中心になるため、教務ガイダンスだけでなく、ゼミ教員の履修指導、講義初回での講義計画の説明を有効に活用して、当該講義を履修する意義を理解した上で講義に臨む習慣づくりに努めたい。
2	4.0	0	0	0	3	28	38	
3	4.2	0	0	0	2	13	54	
4	4.0	0	0	0	6	25	38	
5	3.9	0	0	0	6	34	29	[授業[内容]] シラバス記載内容の実質化、講義内容の理解については、数値が改善しつつある。講義内容は、基礎ゼミ、英語などのスキル系科目、経営経済系専門科目の担当教員毎に、相互間の連動を意識した改善に取り組んでおり、ポストン留学の経験や、3年次以降の学修と関連づけて学ぶことができるよう一層工夫に努めたい。
6	3.9	0	0	0	10	26	33	
7	4.0	0	0	0	11	19	39	[授業[教え方等]] 教授法や講義資料の工夫、聞き取りやすさ、分かり易さについては、前期と比較して全項目で改善している。特に分かり易さに関する評価が向上した。学生によるディスカッションや発表を取り入れたアクティブラーニング型講義運営を積極的に進めようとする教員も増えている。講義内で学生と対話することによって、理解度に合わせた講義進行を進めることで、参加意欲を高めることができるよう、上記取り組みを維持・発展させていきたい。 継続的課題として、経営・経済系講義(50名程度)においては、1年次から専門領域に分かれた講義内容が展開されるため、各領域間の相互関係を理解させるための努力が求められる。来年度よりプロジェクト学習も本格化することから、学際的、領域横断的な学びの機会を創造していきたい。
8	4.1	0	0	0	5	19	45	
9	4.0	0	0	0	9	20	40	
10	4.0	0	0	0	7	24	38	
11	4.0	0	0	0	4	22	43	[環境・設備等] 新校舎稼働により、教室内環境に対しては一定の評価を維持している。一方、教室定員に近い人数での講義では、教員が自由に動くことのできるスペースの確保が難しいなど、対話型講義を進める上での課題もある。机と椅子は移動が容易で、グループ討論用の配置をつくり易くなったが、できれば、特定教室でグループ学習のフォーメーションを常態化できるような試みをしたい。
12	3.8	0	0	1	14	34	20	

3. 今後の方針

- 1) 経済・経営系科目、スキル系科目(英語やコンピュータ他)、初年次教育科目、プロジェクト科目(ゼミナール)のそれぞれの領域において、担当教員間の対話を随時行い目標と対応事項を定め、効果的な教授法の開発と共有を図る。また、統一的な目標設定とプログラム管理の面で、各領域のコーディネータの役割を強化する。
- 2) 3年次以降に開始されるプロジェクト型学習(ゼミナール)において、ゼミを横断して参加できるプログラム(横断プロジェクトやインゼミ)を開発する。アクティブラーニング(ディスカッション・プレゼンテーション・課題演習)を継続して推進し、授業外学習の習慣化を通じてプロジェクト・アウトプットのクオリティ向上を図る。プロジェクト活動を通じて、学生間でピア・ラーニングを行うカルチャーを醸成する。
- 3) 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。学生による卒業までの履修計画づくりについて、自律性と計画性を高めるよう指導する。
- 4) スキル系科目(英語)において、ボストン留学前の1年生に対する英語力向上プログラム(TOEICスコア改善)の体系化を検討する。経済・経営系科目においては、ボストン留学を控えた1年生に対して、ボストンで英語による専門科目の講義が行われることを念頭に、日本語と英語での専門用語の理解を促していく。2年生に対しては、ボストン留学で培った英語力維持に資するプログラムの開発を進める。
- 5) FD講演会、FDサロンへの参加を通じた新たな教授法の習得に努める。また、ボストン校教員との情報交流を進め、ボストンプログラムの改善に努める。

1. 概評

各項目の平均点、得点の分布ともに、前年度同学期と同様の傾向であり、学生の学習態度、教員の授業運営双方とも良好な状態を堅持している。学生の授業外の学習活動が一層増えるような授業運営の工夫と学生への働きかけを行っていく。図書館については、利用の案内、蔵書紹介等を授業の中でも積極的に行っていく。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.9	0	0	0	1	17	13	[学生] No.2(授業への積極性)、No.3(出席状況)、No.4(授業外学習)は、高い得点であり、授業に対する学生の意欲の高さがうかがえる。シラバスについては、授業の初回に改めて学生と共有した上で、学生の授業に対する積極的な構えを促していきたい。学生が授業外での学習活動について、意識化できるように各教員で働きかけていく。
2	4.0	0	0	0	0	13	18	
3	4.4	0	0	0	0	1	30	
4	4.1	0	0	0	1	8	22	
5	4.0	0	0	0	1	10	20	[授業[内容]] シラバス記載の授業到達目標を学生が意識するように指導し、学生の授業理解を促す授業運営を心がけていきたい。
6	3.8	0	0	2	3	10	16	
7	3.9	0	0	3	1	12	15	[授業[教え方等]] 各授業において、板書、視聴覚教材、配布資料等に工夫が凝らされていることがうかがえたが、学生の授業理解に一層資するように、授業資料、授業方法の改善と向上に努めたい。
8	4.0	0	0	1	2	9	19	
9	3.9	0	0	2	2	11	16	
10	3.9	0	0	1	3	10	17	
11	4.0	0	0	0	2	10	19	[環境・設備等] 図書館の蔵書については、引き続き教員が参考書籍の購入依頼を積極的に行うことで充実を図るとともに、授業内でも学生に広報することで、図書館の活用を促していきたい。
12	3.8	0	0	0	3	17	11	

3. 今後の方針

- 学生の授業に向かう姿勢、教員の授業運営双方ともに良好といえる。授業内容や教え方などに関しては、今後も教員間の情報交換を密にし、授業の質の一層の向上を目指す。
- 図書館の蔵書に関しては、各教員が担当授業科目における参考書籍の購入依頼を積極的に行うことで充実を図るとともに、学生への指導、広報を引き続き行い、学生が図書館をより活用するように促していきたい。
- 各教員の授業の質の向上を目指すために、引き続き授業公開を行い、授業運営に関する教員間の意見交換、情報共有を一層図っていく。
- 基礎学力に課題があると思われる学生に対しては、基礎教育センターを紹介する。

1. 概評

前年度と同様に、各項目のポイントは上がり、学生の学習態度、教員の教授法に関する項目はそれぞれ高い評価を得ている。具体的には、問3(シラバスの確認)、問8(授業への理解)は前年度と同様に4.2点と高く、その他の項目は全て前年度より0.1ポイント高く評価されている。教員の教授法や教材・配布資料の効果的な活用が、学生の授業態度や授業内容の理解へとつながったといえる。問1のシラバスの事前確認は、大学全体より0.2ポイント高く、学生の意欲的な学習姿勢がうかがえる。学習環境(人数、部屋の広さ等)と、図書館の参考図書項目は、毎年0.1ポイントずつ上がり、改善への徹底が結果として示された。本学科における演習や実技科目、国家試験対策科目等の評価においては、授業改善アンケートの質問項目が講義科目に対応しているため、問9(効果的な板書)、問12(図書館における参考図書の有無)について低い評価が示された。今後は授業改善アンケートの質問項目を科目形態に応じて選択することができれば、今回の問9, 12の結果は改善されると考える。そのうえで今後は、科目形態に応じた質問項目の作成について学科内で検討していきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等、前年度までの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.1	0	0	0	6	25	52	[学生] 問1(シラバスの事前確認)は、平成23年度から0.1ポイントずつ評価を上げている。授業の進行に応じて授業途中でシラバスを確認させるなど、教員による指導強化の結果、全体平均より0.2ポイント高い評価を得ることができた。問4(授業外の学習状況)については、科目によって差があり、受講生が多数の講義の授業において、学科平均よりも低い結果がみられた。改善策としては、授業シラバスの準備内容に、時間数の入力を徹底することで、授業外の学習時間の目安を教員と学生間で共有でき、学習時間の確保につながると考えられる。授業外の学習時間の確保とその指導を常勤、非常勤教員に働きかけていく。
2	4.2	0	0	0	3	17	63	
3	4.4	0	0	0	0	4	79	
4	4.2	0	0	0	3	16	64	
5	4.2	0	1	1	1	20	60	[授業[内容]] 問5(シラバスに沿った授業)では、実技科目、専門演習等の授業において評価に差が生じている。学修の進捗状況に応じて、シラバス上の授業内容に、追加および変更が生じる可能性がある場合は、その範囲も含めてシラバス上に記載するよう授業担当者へ説明していく。問6(授業内容の理解)については、医学系や統計科目等、授業内容の難易度にも影響しているため、授業外の学修時間の確保といった授業理解が深められる課題の準備と、より学生が理解できるよう授業への工夫を授業担当者に依頼していく。
6	4.1	0	0	3	4	16	60	[授業[教え方等]] 問9(板書、OHP・PowerPoint等の効果的な使用)について実技科目、演習科目、国家試験対策科目等は、評価項目に該当しないため、低い評価となっている。対策としては、正確な評価を得るためにアンケート実施時に評価項目を、科目形態に応じて除外できる旨を、アンケート実施前に授業担当者への周知を図っていく。また、授業改善を図るうえで授業形態に応じた質問項目について必要の有無を学科内で確認し、今後検討していきたい。問10(教材配布資料)については、昨年度と比較し0.1ポイント上がり授業担当者の努力がうかがえる。
7	4.2	0	2	0	4	16	61	
8	4.2	0	0	1	4	16	62	
9	4.1	1	1	1	6	18	56	
10	4.2	0	0	1	4	18	60	[環境・設備等] 問11(良好な学習環境)は、昨年度より0.1ポイント上がり、学生に概ね良好な環境を提供していると考えられる。受講生の多い授業では、適した教室を確保するうえで、1限、5限への時間割変更等、授業担当者に働きかけていく。問12(図書の設備)については、平成23年度から初めて0.1ポイント上がっている。しかし、他の項目より低い評価となっているため、今後も図書の充実を図り、科会等で必要な図書について協議し、購入について検討する場を設けていきたい。
11	4.3	0	0	0	0	14	69	
12	4.0	1	1	0	3	27	51	

3. 今後の方針

基本的には前年度の方針を踏襲する。

1. UP SHOWA などのシステムの充実と活用

活用を促すうえで学生・教員間の相互理解の促進に力を入れていく。

2. 履修登録前の教務ガイダンスの一層の工夫

資格関連の必修・選択必修、コース必修・選択必修科目等、学生がそれぞれの科目内容を理解し、履修できるよう、教務部ガイダンスの内容を工夫し、実施する。

3. 常勤・非常勤教員間の連携強化

・常勤・非常勤教員間で、福祉社会学科の教育理念の共有化が図れるよう、授業公開の実施、参加を働きかけていく。また、大学におけるFD 講座についても参加を呼びかけていく。

・非常勤教員には、授業における学生の座席指定や授業外の学習時間の確保および課題設定等依頼していく。

1. 概評

すべての項目において4.0以上であり、質問12項目のうち全体平均と同値が2項目、ほか10項目は全て平均以上という高評価であった。昨年度と比較しても、6項目が同値、6項目が0.1ポイント上回っており、下回った項目は一つも無い。学生は授業への取り組みが改善された結果として出ており、教員は授業の質を上げる努力の成果が現れたと言える。

前期と同様、ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズごとに授業公開を行い、教員間で授業後にディスカッションをした。お互いの授業の関係性や方向性を確認し合うことが、よい結果につながったと考えられる。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	1	7	37	76	[学生] 授業での授業への取り組み(no.2)と授業外での学習への取り組み(no.4)ともに昨年度の結果を0.1ポイント上回った。授業外での学習については、英語の e-learning への取り組みを指導したこと、教員が意識して課題やレポートを学生に課したこと、などが結果として現れたと考えられる。シラバスの事前確認(no.1)については、前期同様ガイダンス時に促し、教員によっては第1回目の授業で配布し説明するなど改善に向けた努力をしているが、努力の成果がなかなか現れないという状況である。学生には、シラバス確認を徹底するよう引き続き促していきたい。
2	4.2	0	0	0	1	25	95	
3	4.4	0	0	0	0	9	112	
4	4.2	0	0	0	0	28	93	
5	4.2	0	0	0	1	22	98	[授業[内容]] 2項目とも、昨年度よりも0.1ポイント上回った。no.5の結果からは、シラバスが充実し、内容に沿った授業が展開されていることが伺える。no.6については、no.2およびno.4と関連して、学生が積極的に授業に取り組んだかどうかを表していると考えられる。決して低い結果ではないが、授業内容の理解を高めるためにも、授業外での学習時間確保を今後も促して行きたい。
6	4.2	0	0	1	3	27	90	
7	4.2	0	0	0	3	24	94	[授業[教え方等]] どの項目においても高い結果が出ており、学生の満足度の高い授業が行われていることが伺える。昨年度と比較すると、no.9以外は同値をキープしている。no.9は、授業のタイプによってPowerPointを使用しないものや配付資料の多・少の差があること等が評価に影響していると考えられる。no.9を評価から外した先生もいるが、そのことが徹底されずに何人かの記入が結果に反映されてしまい、低い結果となった可能性がある。また、自由記述欄では、受講人数の多い授業で板書の字が読みにくい等のマイナス評価があったが、教室などの環境の問題もあり、対策を考える必要がある。
8	4.3	0	0	0	4	15	102	
9	4.2	1	0	1	2	30	86	
10	4.2	0	0	0	2	22	97	
11	4.3	0	0	0	1	16	104	[環境・設備等] 学習環境に対する満足度は全体で見ても高い。しかし、受講生の多い授業では人数に対して部屋が狭すぎる、受講生の少ない授業では広すぎる、などの記述が何件もあった。参考書の充実度に対する評価は昨年度よりも上がっている。図書館との連携で、参考書の充実に向けた結果である。さらなる充実を図っていきたい。
12	4.1	0	0	0	3	35	83	

3. 今後の方針

昨年、一昨年の結果と比較すると、毎年全体的に数値は上向きであり、確実に改善されてきている。

現代教養学科では、一昨年から3つのスタディーズごとに授業公開を行い、授業後にディスカッションを行っている。授業の関係性や方向性を確認しあうことで、よい結果に繋がっている。今後も授業公開に参加し合うことでお互いの授業の連携を図り、情報交換に努め、よりよい授業の方法を模索して行きたい。また、図書館との連携で、社会学系の図書も年々充実してきている。今後も引き続き進めて行きたい。

自由記述欄への書き込みは、マイナス評価では受講生人数の多い授業に対するものが多く、教室が広すぎて板書が読めない、資料がまわってこない、真面目に受けていない学生の私語が気になった、教室が暑い・寒い・空気が悪いなど、授業環境に対するマイナスのものが相変わらず多い。空調の調整や換気など担当の先生に配慮していただくようお願いしていきたい。

授業内容に関しての記述では、内容は難しかったが頑張った充実感がある、実践的な内容が役に立った、先生の親身な対応が良かった、などプラスの書き込みが見られた。また、DVDに限らず YOU TUBE などの映像資料の活用も評価が良い。今後ますます活用が求められる分野でもあるので、学科でも効果的な活用方法を考えていきたい。

また、受講生同士で話し合いをするものや発表形式のものなど、参加型の授業は評価が高い。社会でも求められている力でもあるので、プロジェクト活動などとともに、効果的な運用を学科でも話し合っていきたい。

1. 概評

全体的に学生の評価は平均値を上回っている。教員の指導方法についても比較的高い評価を得ている。この評価を維持できるよう、学生一人一人の状況に合わせた改善の取り組みや、アクティブラーニングに向けた取り組みを積極的に進めていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	4.0	0	0	0	4	27	46	【学生】 いずれの項目においても全体平均を上回っており、学生たちが積極的に授業に取り組んでいると評価できる。 特に、授業外での学習への積極的な取り組みについての評価が上がっているのは、喜ばしい成果である。
2	4.3	0	0	0	0	9	68	
3	4.5	0	0	0	0	2	75	
4	4.3	0	0	0	0	15	62	
5	4.2	0	0	0	0	16	61	【授業[内容]】 授業内容とシラバスの対応、授業の理解については、例年通りの結果である。 極端に低い評価の教員はいなくなり、全体的に高い水準を維持している。
6	4.2	0	0	1	2	11	63	
7	4.2	0	0	1	2	18	56	【授業[教え方等]】 教え方についても、学科平均は、全体平均を上回っている。教員全体でさらに理解しやすい授業を行うための努力を継続していきたい。
8	4.2	0	0	0	3	11	63	
9	4.1	1	0	0	3	22	51	
10	4.2	0	0	0	3	19	55	
11	4.2	0	0	1	2	10	64	【環境・設備等】 設備、環境について、環境改善につとめた成果が上がりつつあり、満足度が上がっている。ただし、今年度入学者数の定員超過、来年度からの定員増を控え、受講人数に対して、教室が狭くなってしまう講義の増加が懸念されており、いくつかの授業で対策を検討しておく必要がある。
12	4.1	1	0	0	1	21	54	

3. 今後の方針

①学生に関して

受講態度、出席状況について、学生の自己評価は高い。ただし、幾人かの学生については遅刻が多く1限の授業について、単位不認定を繰り返す状況もあり、個別の根気強い指導が必要とされる。

②授業について

今年度は、新たに、電子黒板とタブレットを学科に購入し、学校現場に取り入れられつつあるICTの効果的な活用や、アクティブラーニングの積極的な取り入れを学科全体の課題として取り組み、全員で授業を参観しながら意見交換を行ったが、このような取り組みを継続して実施していきたい。

③環境・設備

今年度、定員超過の119名の学生が入学し、必修科目の授業教室がいっぱいの状態である。来年度は、定員増を予定しており、何らかの対策をとっていく必要がある。

無線ランが整備されたことにより、パソコンを使える教室は増えたので、学科で貸し出せるパソコンやタブレットの数等を増やし、アクティブラーニングに取り組める環境を準備したい。

1. 概評

昨年後期と比較すると、問い1,2,5,7,8,11が+0.1 問い3,4,6,9,10,12が+0.2とどの問いに対しても少しずつであるが評価が上がっていた。昨年度後期と比べても(今年度前期と比べても)、評価が下がった項目はなかった。特に問い12「参考図書が図書館に揃っているか?」については、図書館に書籍を揃えることだけでなく、学生が図書館へ行くよう声掛けをした効果ではないかと考える。と言っても、本学科で一番低いスコアであることには違いはないので、今後とも学生へのアドバイスと図書の整備を行っていききたい。

本学科はデザイン系の科目から哲学系自然科学系と幅広く学び、さらに実験実習系の科目が必須となっている。これらの科目間の評価差は大きいですが、評価の高い科目の授業運営などの工夫なども参考にしていきたい。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいっところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	全体平均	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.9	4.0	0	0	0	3	60	71	[学生] 平成22年よりスコアは徐々に上がりつつ来ている。 問い1(シラバスの確認)に関しては、日ごろから授業の中でシラバスに触れるなどしていきたい。 問い2(授業への積極的な取り組み)は徐々に点数が上がってきた。今後も出席、自宅学習と合わせて評価を上げていきたい。 問い3(出席状況)は前期に引き続き4.3という高得点であった。今後もこの結果を維持できるよう積極的な出席を促したい。 問い4(授業外での学習)は、宿題も含まれることになって以来、4点台をキープしているが、さらなる自発的な学習を促したい。
2	4.1	4.1	0	0	0	2	39	93	
3	4.4	4.3	0	0	0	1	18	115	
4	4.1	4.2	0	0	0	2	30	102	
5	4.1	4.1	0	0	1	3	28	102	[授業[内容]] 授業内容に関する2つの設問に関しては、問い5,6ともに、全体と同じスコアによりやくなった。平成22年からみるとスコアは上昇しており、落ち着いている。
6	4.1	4.1	0	0	2	8	32	92	
7	4.1	4.1	0	0	2	8	30	94	[授業[教え方等]] スコアが3に満たなかった科目が数科目あり、自然科学系、哲学系、実習系が含まれており、学科の守備範囲が広いことも影響があろう。 問い6と問い7は特に相関が高く、授業内容の理解度が低いことが、他のスコアにも影響を与えていることが読みとれる。その中で、教員が話し方や番所、資料などで工夫しているのが現状である。 視聴覚設備やUPSHOWAの有効利用など、授業運営にさらに工夫を加えていきたい。
8	4.2	4.2	0	0	1	3	32	98	
9	4.1	4.1	0	0	1	10	32	90	
10	4.1	4.1	0	0	1	8	36	89	
11	4.2	4.2	0	0	0	3	27	104	[環境・設備等] 学習環境に関して、教室などが狭いと言った声が上がっても、十分な広さの教室に変更できない現状があったが、一部80年館西棟に入れていただき感謝している。 図書館の整備とその利用に関しては、今後とも学生に対するアドバイスを行っていききたい。
12	4.0	3.9	0	0	0	17	59	58	

3. 今後の方針

学科の平均を平成 22 年度から見ていくと、少しずつ評価が上がっているか、あるいは現状維持であった。0.1 ポイントの上下に一喜一憂するのではなく、トータルとして学生がしっかりと力をつけられるよう、教員側もスキルを磨き、学生の自覚も促していきたい。

問い 3（学生の出席状況）のスコアが 上がったとはいえ大学全体よりは低いので、学生への声掛けや、授業内でのシラバスの確認・有効利用を図っていきたい。

問い 12（図書館の利用、関連図書の充実について）も上がってはきたが、今後とも参考図書の整備を続け、引き続き各授業での図書館利用アドバイスをおこなっていきたい。また、各教員による図書の推薦も積極的に行いたい。

学生の理解度が上がりにくい科目群の一部については、習熟度別のクラスにしている科目もあるが、できるだけ少人数化を維持したい。今後も可能である限りこの方針で、教員の配置を行っていくつもりである。

1. 概評

前学期と比べて各項目の平均値はほぼ横ばいで、依然として高い得点を維持している。学生の高い学習意欲や積極的な取り組み姿勢が窺える。学習環境は良好に保たれているが参考図書は十分でないと感じている。授業内容は常に新しくなっているため、学生が必要とする図書や雑誌なども新規にあるいは順次更新される必要がある。図書の充実を図るための取り組みを継続する必要がある。

（上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。）

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価（全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。）

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.8	0	0	0	4	49	12	<p>[学生]</p> <p>管理栄養学科で開設されている科目の多くは資格取得のための必修科目であり、積極的に取り組まないと国家試験の合格は望めない。そのため、これら項目の平均値はいずれも前学期同様高い数値を示した。出席状況は極めて良く、授業外での学習にも、タイトなカリキュラム構成を考慮すると、十分取り組んでいると評価できる。</p> <p>学生にとってシラバスは、授業内容を知り、事前準備に欠かせない重要な情報源である。さらに積極的に授業に取り組めるよう、シラバスを確認するよう指導してゆく。</p>
2	4.2	0	0	0	0	7	58	
3	4.5	0	0	0	0	0	65	
4	4.1	0	0	0	1	17	47	
5	4.0	0	0	0	0	23	42	<p>[授業[内容]]</p> <p>これらの数値は前学期のそれと同じ高い数値である。しかし両指標とも3.5未満の評点が減少しており、授業内容の理解度は高まっていると考えられる。</p> <p>今後も、シラバスの確認、授業の事前準備を、学生に指導してゆく。</p>
6	4.0	0	0	1	4	24	36	
7	4.0	0	0	1	3	24	37	<p>[授業[教え方等]]</p> <p>これらの平均値は前学期とほぼ同じ高い数値を維持している。質の高い高度な内容がわかりやすく講義されていることを示す結果である。一方、教え方や理解の評価は、受講学生数と教室の広さ、静粛性、付帯設備などの状況によっても影響を受ける。この高い数値は、学習しやすい環境が、概ね整っていることを学生が認めたもので、評価すべきことである。</p> <p>しかしその一方で教育媒体に満足していない学生のあることも、小数ではあるが、示されている。</p> <p>施設面での充実を図ると共に、講義内容の理解を高めるための一層の工夫も必要である。</p>
8	4.1	0	0	0	4	17	44	
9	4.0	0	0	1	1	25	38	
10	4.0	0	0	1	1	21	42	
11	4.0	0	0	0	1	28	36	<p>[環境・設備等]</p> <p>これらの平均値は前学期に比べると0.1~0.2ポイント低下している。教室の広さは十分でないと感じている学生も少なくない。専門領域図書の充実を望む声は高まっていると考えられる。</p> <p>環境・設備の一層の充実を進めなければならない。教員からも要望を積極的に出すよう、働きかけてゆきたい。</p>
12	3.8	0	0	0	9	41	15	

3. 今後の方針

管理栄養学科は、管理栄養士養成を主たる教育目標の一つとして捉えており、資格取得に関わるカリキュラムの一層の充実が求められている。学科学生のはほとんどは管理栄養士国家試験合格を目指しており、学習目的は明確で勉学意欲は極めて高い。これら学生の要求を満足すべく、来年度はカリキュラムの変更を行い、スリムで効率的な教育を押し進めてゆく。

管理栄養士は、主に医療の現場で活躍するため、食品や料理の知識や技術はもとより、心の問題から病気の分子メカニズムに至る極めて幅の広い知識と技能を修得している事を求められる。化学や生物学はこれらの基礎となる領域であり、これら科目の学力を高める取り組みが欠かせない。現在行っている入学前教育(化学)を今後も継続し、基礎学力向上を目指した取り組みを行ってゆく。

管理栄養士の主な活躍の場である病院では、チーム医療が行われており、医学英語のスキルが必要とされることが多い。又世界で活躍できる管理栄養士となるためにも高い英語力が必要とされる。来年度から管理栄養学科は、専門科目としての英語を学科開講し、管理栄養士として要求される専門英語の教育を開始する。

1. 概評

今年度から、新カリキュラムが立ち上がり、新旧両カリキュラムの授業が並行して行われている。全体としてみると、ほとんどの科目が資格必須または領域必須となっている為、学生による科目選択の余地は、それほど大きくはない。これに関しては、これまで同様、授業評価に反映されたものと考えられる。
 (学生)シラバス確認は、これまでとほとんど変化がないといえると思われるが、まだ十分とはいえない。これは多くの授業が資格、領域必須であるため、選択の余地がそれほど大きくないことに起因すると考えられる。そのほかの項目についても顕著な変化はないように思われる。
 (授業)全体的に平均的な評価であったが、多少の高低差はみられた。
 (環境設備等)教室などの学習環境の評価は平均的であるが、参考書についての評価は依然として、高いとは言えない状態である。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手いところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.8	0	0	2	7	32	16	[学生] シラバス確認についての評価に変化はないが、まだ高いとは言えないレベルである。これはほとんどの授業が資格または領域必須であり、クラス分けし時間割によって履修を行っている為、確認の必要性を認識しにくいためであると考えられる。授業の出席についての評価は引き続き高く、栄養士養成施設に学ぶ者としての自覚のあらわれ並びに、各教員の指導の賜物と考えられる。 実験実習科目での評価が高く、講義科目での評価が低い傾向にあるのは例年通りであるが、継続的に授業内でのレポート作成時における、関連検索などに関する思考や手段についての指導も継続して充実させる必要がある。
2	4.2	0	0	0	2	13	42	
3	4.5	0	0	0	0	1	56	
4	4.2	0	0	0	3	13	41	
5	4.1	0	0	0	2	18	37	[授業[内容]] 全体的に平均的な評価であった。科目選択の余地が少ない状況であるが、本学科の目的ははっきりしている為、授業への取り組みの姿勢、意識が保持されていると考えられる。今後はさらに授業への集中、予習復習の取り組みにも力を入れるよう、機会ある毎に指導をしていきたい。
6	4.0	0	0	2	4	18	33	
7	4.0	0	0	2	7	14	34	[授業[教え方等]] 全体的に平均的な評価であった。従来は授業内容の評価において、基礎科目で低評価になる傾向があったが、この点を改善すべく今年度からカリキュラムの改定を基礎科目に重点をおいて実施し、改善傾向が見られた。これに満足することなく今後も継続的に授業効果の向上を目指していきたい。
8	4.1	0	1	1	6	11	38	
9	4.0	0	0	4	4	17	31	
10	4.0	0	0	1	5	16	35	
11	4.2	0	0	0	1	14	42	[環境・設備等] 教室設備についての評価は平均的であった。一部の授業では低い評価が認められるが、学生数の多い科目では十分でない環境で実施せざるを得ない状況があったと考えられる。一部科目については、受講者が多い場合に2クラスに分けて実施をしたり、時間割の工夫をしている。参考資料については依然十分とは言えない状況であるので、継続的な充実を図る必要がある。
12	3.9	0	0	0	3	31	23	

3. 今後の方針

本学科は、資格関連科目が大部分を占め、クラスごとに履修が同じ科目が多い。また科目名から内容がほぼイメージ可能等の理由により、学生はシラバスを十分に確認することなしに、授業に参加する傾向が強いと考えられる。授業に対する取り組みや出席状況は、概して良好であり評価は高い。今後、資格関連科目、選択科目ともに、授業への能動的かつ積極的な参加と学習意欲の更なる向上を目指して、将来設計を含めた情報の提供を促進し、評価が向上するように努める。その意味で今年度からのカリキュラム改訂を充実させていきたい。また基礎科目群、資格関連の基礎科目の授業関連の評価が改善傾向にある事から、指導體制の充実やカリキュラム改訂の効果を観察しつつ、改善の試みを継続したい。今後とも学生の学習意欲の向上につながる指導方法、環境整備などを学科内の教員個人に加え、科会等で情報交換を活発化することで行いたい。

1. 概評

120 の開設科目に関するアンケート結果である。まず、全項目 no1～12 までの評価は平均 4.0 と、ほぼここ数年変動はない。
 <改善を要する項目>

- ① no1(シラバスによる授業内容の確認)：一般教養科目は選択科目であるので、授業内容の確認が必須であるにも拘らず、必ずしもシラバスによる確認がなされていない。来年度に向けて、対策を検討していきたい。先生方には、いろいろご協力願わねばならない。
- ② no12(参考図書等の充実)：数年前と比較すれば評価は上がってはいるが、担当教員に協力を願うとともに、何らかの対策を検討したい。

上記以外の項目に関しては、おおむね及第点と判断できる。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(一般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	3.9	0	0	0	13	61	46	[学生] 相変わらず no3(出席状況)については、120 科目中 110 科目(92%弱)が4以上に、10 科目が 3.5 から 4 に分布しており、驚嘆に値する。 no1(シラバスによる授業内容の確認)については、依然 3 点台で、この項目群の中では、最も評価が低い。読んで面白いシラバスの作成が必要であることは言を俟たないが、学生への動機づけも必要である。 no4(授業外学習について)は、ここ何期かは 3.9 であったが、今回は、4 点台に上った。しかも、科目分布でいえば、4 以上が71科目(59%)もある。但し、2.5-3 が 5 科目、3-3.5 が 7 科目ある。学生の自己評価が甘いような気もするが…
2	4.0	0	0	0	3	52	65	
3	4.3	0	0	0	0	10	110	
4	4.0	0	0	5	7	37	71	
5	4.1	0	0	0	3	31	86	[授業[内容]] 2項目ともに、概ね文句ない評価である。no5 は、86 科目(72%)で、概ねシラバス通りに授業が行われていることが分かる。no6 は 64 科目(53%)が、評価4以上で、授業内容の理解も決して悪い評価ではない。
6	3.9	0	0	1	11	44	64	
7	4.0	0	0	1	12	33	74	[授業[教え方等]] no7～no10 の評価は、すべて 4 以上である。教員の講義内容・方法について、よい評価と判断できるが、何を基準として学生が評価しているのかが、気になるところである。シラバスに示された授業の到達目標をどれだけ確認した評価であればよいが。
8	4.1	0	0	0	10	30	80	
9	4.0	0	0	1	20	28	71	
10	4.0	0	1	0	12	30	77	
11	4.0	0	0	0	7	39	74	[環境・設備等] no12(参考図書等の充実)は 3.8 で、引き続き全項目の中で一番評価が低い。本センターは学内、学外の非常勤教員が多いので、是非とも先生方の協力を仰ぎたい。
12	3.8	0	0	0	10	63	47	

3. 今後の方針

昨年度、学科のカリキュラムとの整合性という観点から非常に制限されたものとならざるを得ないが、一般教養の履修方法の提案を行った。本年度は、それを実施に移す年である。特に、本年度開設の『総合教養研究』に関しては、しっかりと検証を行っていく必要がある。

2年目以降に履修する外国語科目(内容別科目)を一般教養科目とし、10単位ほどを一般教養科目の単位として選択履修する仕組み作りについて、本年度も継続して検討していきたい。

1. 概評

全体の評価(全項目の平均値)は、4.05で昨年より高くなり、概ね良好と言える。H25 年後期の同時期と比べたら評価は高くなり、H26 年前期同様4.05を維持している。但し、1 項目については前期より少しではあるが、低くなっているので学生の授業前に積極的に学習できる工夫を検討したいと思っている。
シラバス確認については1回目の授業で確認できるよう指導を強化する。

(上手くいっているところと、問題点についてまとめる。良い状況、良くない状況双方ともその要因と対処策等について、出来るだけ他学科にも参考になるように記述する。)

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(一般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1 ≤ <2	2 ≤ <2.5	2.5 ≤ <3	3 ≤ <3.5	3.5 ≤ <4	4 ≤	評価と対策
1	3.7	0	1	12	38	89	53	[学生] 評価の数値は、1 項目を除き、全体的に高い。授業には真面目に出席し、課された課題などについてはきちんとやっていると思われる。 1 項目の評価が依然として低いが、他の項目については学生の自己評価が高い。どれほど実態を反映したものなのかは疑問である。 最初の 1 回目の授業でもシラバスを確認するようにしているので履修前の評価なのか判断しにくいところもある。 外国語科目は特に自主的な学習が求められているので与えられたものだけでなく、自分から進んで学習できるよう指導していきたい。
2	4.1	0	0	0	6	53	134	
3	4.3	0	0	0	3	13	177	
4	4.1	0	0	0	7	58	128	
5	4.0	0	0	0	6	74	113	[授業[内容]] 例年通り評価が高い。学生の満足を表している証拠だと言える。授業内容の理解度の評価が 0.1 高くなったので今後も高評価を受けよう精進したい。
6	4.0	0	0	3	17	71	102	
7	4.1	0	1	7	11	48	126	[授業[教え方等]] 全項目について高い数値である。特に8項目については前回より評価は高く、全般的に授業に満足していると考えられる。テキスト以外の映像を利用した資料などが学生の理解度を高める効果はあったと思われるので今後も活用していきたい。
8	4.2	0	0	4	11	31	147	
9	4.0	0	0	5	13	56	119	
10	4.0	0	0	3	18	52	120	
11	4.3	0	0	0	6	26	161	[環境・設備等] 学習環境への評価は高くなって、整備が整っている結果と思われる。図書館の資料については引き続き、益々の充実が求められる。
12	3.8	0	0	2	22	98	71	

3. 今後の方針

- 少人数クラス(1年対象クラス30名以内、2年生以上対象クラス20名以内)の方針を今後とも堅持していくとともに単位を取り終えた上級生でも外国語を続けるよう指導していく。
- 平成 26 年度から 1 年次外国語英語の再履修クラスを設け、基本的には単位を取得できなかった学生は 2 年次以降にこのクラスを履修することが義務付けられているが、このクラスの履修状況はあまり芳しいとは言えない。理由は、IIA, IIB の後期科目の再履修クラスが後期にしか設置されておらず、前期に履修できる内容別科目で代替する傾向にあるからである。従って、前期にも IIA, IIB の再履修クラスを設置したい。

1. 概評

これまでも述べてきたことであるが、教職科目の殆ど全ては教員免許状取得のための必修科目であり、授業内容への関心や興味が初めから高いことは期待できない。しかし、教職(教員免許状取得)を目指す学生であれば、一定の目的意識は持って(潜在的にであっても)持っているはずであって、その意識を顕在化し、教育や教師のあり方を考えさせる授業を行うことが求められている。

アンケートの結果は各項目4.2以上である。数値はほぼこれまで通りであり、概ね良好と言える。各科目担当教員の努力と工夫の成果が定着してきていると考えられる。

ただ個々の科目を見れば、評価にばらつきもあり、今後は学生の興味・関心を高める授業や学生参加型の授業のあり方を追求し、そしてすぐれた取り組みを共有できるようにする。

2. 各項目の評価

各項目の科目ごとの評価(全般的な評価、上手くいったところと問題点の整理、高い点数、低い点数の科目の長所と問題点の整理等。前年度までとの比較で記述する。)

no	学科平均	1≦ <2	2≦ <2.5	2.5≦ <3	3≦ <3.5	3.5≦ <4	4≦	評価と対策
1	4.2	0	0	0	0	7	18	[学生] 平均の数値ではほぼ前期と同様である。No1(シラバスの確認)が昨年度後期は4.4であったが、本年度前期・後期は4.2であった。 全体としてはシラバスを見て授業に臨むということがかなり定着してきたと言えよう。シラバスは単に「授業予定表」ではなく、授業で何を学ぶのかを示す一覧であり、授業開始時に限らず適宜参照する必要がある。 その他設問項目も4.3以上であり、学生の授業への取り組みは概ね良好であると考えられる。ただNo4(授業外での学習)はやや低い傾向にある。事前課題や事後のレポートなど、適切な課外学習ができる工夫を一層行うことが必要である。
2	4.4	0	0	0	0	1	24	
3	4.5	0	0	0	0	0	25	
4	4.3	0	0	0	0	2	23	
5	4.3	0	0	0	0	1	24	[授業[内容]] 授業内容については4.3で、概ね良好である。昨年度も指摘した通り、シラバスに沿った授業が必要であるといっても、「シラバス通り」にこなせばよいということではない。学生の実情に即した対応が求められることもある。その場合、授業内容についての説明を充分に行うことが必要である。
6	4.3	0	0	0	0	3	22	
7	4.4	0	0	0	1	1	23	[授業[教え方等]] この領域は「説明の明快さ」「話し方」「メディア活用」「資料・教材」という、授業の技術的側面に関わる。平均は4.3~4.5であり、概ね良好と言える。ただ若干低い科目は依然として見られる。 中高でもアクティブラーニングが求められている中で、教職科目の中でも学生自身がそれを体験することは重要である。 学生は、授業の内容からと同時に、進め方・形式から学ぶのであるので、授業担当者は簡潔、明確に説明を行うようにし、極力学生が主体となる授業を目指すことが必要である。 「メディア活用」「資料・教材」については、新しいメディアをいかに有効に活用していくのかを考え、必要なものを活用できる能力を身につけることも求められる。同時にメディアはあくまでも「道具」であることを忘れず、教員と学生、学生同士の直接的な人間関係を基礎にした授業を行うことが、何より大切である。
8	4.5	0	0	1	0	0	24	
9	4.3	0	0	0	1	1	22	
10	4.4	0	0	0	1	1	23	
11	4.4	0	0	0	0	0	25	[環境・設備等] 空調設備を始めとする教室環境にも大きな問題はなかった。図書館の充実については、今回改装されたこともあり、学生がより活用するよう、授業の中でも、利用の仕方を伝えていく必要がある。
12	4.2	0	0	0	0	3	22	

3. 今後の方針

これまで通り、基本的には概ね良好な状態であると考えてるので、今後もこれを維持・向上していくことに努める。

授業の内容や方法については、個々の担当者での改善への工夫を基本としながら、教職科目全体としての底上げを図っていく。非常勤担当の科目が多いので、専任教員を中心として、授業改善の方策を提案し、共有化をめざす。

授業改善の一環として、授業外での学習支援活動、とりわけ教育実習や教員採用への対応をより充実させ、教職課程の目的である「優れた教師の養成」を進めていく。